

報告日 令和7年12月10日
報告回次 2回目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	大郷町役場			代表者名	町長 石川 良彦
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	総務課	連絡先電話番号	022-359-3111
担当者役職	係長	担当者氏名	鎌田 侑希	連絡先E-mail	
住所	981-3592 宮城県大郷町粕川字西長崎5-8				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	連絡先部署
担当者氏名	連絡先電話番号

1-3. 支援を求める内容

支援方法	トップセミナー	事業名	DX推進のための地域（役場内外）の気運醸成
概要	大郷町が掲げる「大郷町総合計画」および「大郷町DX全体方針」のもと、デジタル技術を活用したDXを推進しています。本セミナーは、DX推進の鍵となる町長をはじめとするトップ層を対象に、DXの必要性や先進事例への理解を深めてもらうことを目的としています。組織全体のDXへの意識を統一し、迅速な意思決定を可能にすることで、職員のDX推進に対するモチベーションを高めます。		
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成）人材（DXに関する知識習得・研修・育成）計画策定支援 AI活用 教育情報化／情報教育 地域ビジネス シェアリングエコノミー		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年11月21日	講演(実地)	14時00分	15時30分	
				活動時間（分）	90
2-2. 派遣場所	会場名	大郷町役場	最寄駅	利府駅	
	所在地	宮城県黒川郡大郷町粕川字西長崎5-8	最寄駅からの交通手段	JR東北本線利用下車徒歩約10分（JR東北本線利用下車徒歩約10分）	JR東北本線利用下車徒歩約10分（JR東北本線利用下車徒歩約10分）

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	森戸 裕一
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようにところがよかったです等詳細に）	DX推進については全体方針なども設けているが、実務レベルで各職員が業務に落とし込んでいる状況ではなかった。今回の研修でIT技術の導入がDX推進のすべてではなく、業務プロセスの改善やAIを活用した業務サポートなどの事例を紹介いただき、実務レベルでどうしていくべきかが示されたことで、DX推進の機運醸成に大いにつながったと考える。
アドバイザーへの要望事項	次回のフォローアップ研修も引き続きよろしくお願いします。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	36人	
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	36	0	0	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	・幹部職員を中心とした推進体制の未整備 変化する社会情勢に対応できるような管理体制が整っておらず、管理職の管理意識も欠如している。 ・職員からの地域DX推進に関する積極的な提案やアイデアの不足 チャレンジしやすい土台作りをするために、管理職のマネジメントが不足している。
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	急速に変化する社会情勢に対応し、市民サービスの質の向上と職員の働きがいを両立させるため、管理職がDXの重要性を理解し、組織変革を主導できるリーダーシップを養うことを目指す。 また管理職の適切な管理のもと、若手職員が自ら考え実行していく組織体制を構築していくことを目指す。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	行政運営およびDX推進における管理職のリーダーシップ体制の強化に焦点を当てて、支援を受けました。 ・管理職のリーダーシップ育成に向けた研修の実施 ・DX推進に必要なマネジメントスキルや組織変革の重要性についての啓発 ・職員のウェルビーイング向上に向けた働き方・マネジメントの在り方の提案 ・DXを推進するための組織文化やリーダーシップの醸成支援
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	研修会を行ったことで、職員にDX推進の意義、手法、管理職としてのマネジメントスキル、組織変革の重要性について共有することができた。
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑦その他 研修から一定期間を置いた後に、研修受講者に対し、研修の理解度や意識喚起についてのアンケート調査を行い、DX推進の意識醸成が図られた。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	解決された内容はない。 組織文化や変革の浸透に一定の時間を要している 管理職や職員の意識改革はアンケートのとおり一定の成果を上げているが、DXや働き方改革を組織全体に浸透させ、文化として定着させるには、引き続き継続的な取り組みと時間が必要。
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 研修の時間はちょうどよいが85%、短かったが10%、長かったが5%となった。理解度は8割以上理解できたが17%、8割程度理解できたが21%、6割程度理解できたが57%、それ以下が5%となった。参考となったものではDX時代に求められる新たな管理職の役割が46%と最も高く、次いでITとDXの違い(42%)、管理職に必要となる組織マネジメントスキル(35%)、時間を生み出すタイムマネジメント(28%)などとなった。意識喚起されたものとして、AI技術を活用した業務の効率化が50%と最も高く、次いで働きやすい職場環境づくりの責任(46%)、業務プロセスの改善(39%)などがあげられた。 AI技術の活用について、業務の効率化・改善につなげたいと思っているが、実際に使ったことがない者が多数を占めている。その中で今回講師から活用法の一端を示していただいたので、全体としてDX推進の意識喚起がされたものと考える。
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい ③現段階では課題・問題が残っているため未定
4-4. 事業の最終的な目指す姿	職員のDX推進における意識改革を行い、役場全体としての機運醸成を目指す。

5. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 掲載不可

<https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/>

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

